

トキと生き物のつながり学ぶ

絵本作家・村上康成さんと創作体験



トキを取り巻く生き物を思い思いの形で切り抜く子どもたち。8月9日、出雲市稗原町の稗原コミュニティセンター

出雲市でのトキ放鳥の決定を記念し、絵本作家、村上康成さんの講演会とワークショップが8月9日、放鳥場所となる同市稗原町の稗原コミュニティセンターで開催されました。小学生23人が参加し、絵本の読み聞かせや絵の制作を通じて、トキを取り巻く生き物のつながりや自然環境の大切さについて理解を深めました。

市が、2027年初夏に予定されているトキ放鳥を幅広い世代に知ってもらおうと企画。出雲市政策企画課プロジェクト推進室の

としても活動しています。この日は「ピンクのいる山」の読み聞かせを行いました。同作は、ヤマメの「ピンク」を主人公に、川で暮らす生き物や人間の姿を通して、食べるものと食べられるものがつながる自然界の営みや命の循環を描いた作品。読み聞かせに続き、子どもたちと生き物を描くワークショップがありました。

ワークショップでは、子どもたちがトキの餌となる生き物などを題材に、自由な発想で紙を切り抜き、色を塗りました。村上さんは「考える時間も大事」と呼び掛け、形を写真的に再現することにとらわれず、自分なりの色や形で表現する楽しさを伝えました。完成した生き物の作品は、縦1・8メートル、横5・4メートルのトキが描かれた紙の上に並べられ、多様な生き物がつながる世界を表現した作品に仕上がりました。

参加した小学5年生は「作って学ぶことで、食物連鎖や命について知ることができた」と感想を述べ、別の児童は「トキも食べられる側にいる。出雲にトキが放たれることが楽しみになった」と話しました。村上さんは「トキも大事だけど、こういう生き物たちも本当に大事」と語り、身近な自然に目を向けるよう促しました。

作品は今後、市内のトキ公開施設で展示される予定。加村室長は「たくさんさんの生き物がいないとトキは生きていけない。そうした環境をみんなでつくるきっかけになれば」と話しました。

新連載

いのち♡つなぐ

～みんなに知ってほしい臓器移植～

「からだの中のヒーローたち」

みなさんは、走ったり、勉強したり、おいしいご飯を食べたりすることができますね。それは、体の中にある「臓器」がそれぞれの仕事をしているからです。

心臓は血液を全身に送り、肺は呼吸をしています。腎臓は血液をきれいにして、肝臓は栄養を体で使える形に変えるなど、たくさんの大切な仕事をしています。

普段は意識することが少ないかもしれませんが、臓器は24時間休むことなく働いています。もし心臓や肝臓などの臓器が動かなくなったら、私たちは元気に生活することができません。

まずは、自分の体の中にある臓器について知ることから始めてみましょう。



しまねまごころバンク
臓器移植コーディネーター
児玉理恵



それぞれの
臓器の働きを
調べてみよう！

ミニクイズ

人の体で、血液を送り出している臓器はどれでしょう？

①肺 ②心臓 ③肝臓

★答えは次号で発表！